

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・松魚亭

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：山岸与作 幹事：上田忠信

情報委員長：中村三次

1983・3月10日 第236号

ロータリー30年の回顧

——厚き友情に感謝して——



柴田 三郎

昭和28年3月1日、私は金沢RCに入会し、ロータリーの道に第一歩を踏み出した。私は若冠(?)45歳であった。

当時の金沢RCは石川県ただ一つの存在で、会員も30数名、私と同時に入会の福光博(酒造)、柿下正道(医学)、谷村庄平(美術品)さんら4名が加って、やっと40名を越えたばかりで、クラブへの入会は、まだまだ開放的ではなかった。当時すでに金沢RCのメンバーで、

現在ロータリーに残っておられる先輩には真柄要助(建設)、吉田次作(印刷)、高木洋(相互銀行)、江川昇(金沢市長)さんら4人であり、私と同期の4人でさえ福光さんと私の2人だけとなって仕舞って、歳月を痛く感ずる次第である。

私は、この金沢RCに約5ヵ年、次いで金沢東RCの創立と共に移籍して15ヵ年余、更に金沢北RCの創立されや移籍して、10年になんなんとし、通算30年となった。而して併せて皆出席を全うすることが出来た。これは、石川県および富山県を含めて当地区における最高記録のようである。

この30年、経ってしまっていて願れば短いようであるが、私には、わが人生における波瀾万丈を極めた激闘の歳月であって、河上肇先生のお言葉「たどりつき、ふり返り見れば山河を、越えては越えて来つものかな」そのものであった。多忙な日々で、その頃、会社で新聞を読む時間も惜しかったのを思い起し感慨深いのである。

こうした私の生涯、忘れてならない他人様からのご支援、ご恩、人の情も知りつくしたが、要領よく立ち廻る面従腹背は、私の性根に合わず、少からぬ誤解も招き損もあったろうが、“徳は孤ならず、必ず隣あり。また“積善の家には必ず余慶あり”など、先哲の訓え、ロータリーの心に励まされ、苦闘を続けつつも、昭和23年、金沢商工会議所議員となって、連続35年になろうとしている。

物事すべて、長きを以って必しも貴しとはしないが、私は、中途半端では気がすまぬ生来の根性で、やらねばならぬと思えば猛進して来たようである。ロータリーでは対内的には、金沢RCの会場監督に引続いて幹事を。また金沢東RCに移籍後は副会長、会長をと順次、選ばれるままに努めて担当。

(次頁へつづく)

一方、対外的には、昭和30年の第61地区大会幹事を(当時全国4地区)。また、昭和41～42年の第360地区(長野、愛知、岐阜、三重、石川、富山の6県)を担当の岡田良介ガバナーの補佐(今の地区幹事)を、故、小倉周六さんと共に担当。このあと「ロータリーの友」地区委員を2ヵ年。次いで昭和44年の第361地区大会(岐阜、三重、石川、富山4県)の計画委員長(今はガバナー兼任)を命ぜられ、その翌期、矢橋六郎ガバナーの石川県分区代理を委嘱され、当時は全県一区で、富山県分区代理は、後のガバナー中田清兵衛さんであった。分区代理となった私は意欲に燃えつつ、昭和45年9月20日富来RCを、昭和46年3月27日能美RCを、昭和46年5月1日志賀RCを、等々3つのクラブの創立の産婆役の一端を果たした。話は先に遡るが、金沢RCの幹事の時、会長嵯峨保二さんの命をうけて小松RC(昭和30年8月11日創立)、七尾RC(昭和30年8月17日創立)に微力をつくしたので、これら5つのクラブは、私には忘れ得ぬ感慨が残っているのである。

ロータリーの恩恵、功德は、知らず知らずの内に身につき、次第に定着し発酵してゆくものである。私は、この間、訓えられ、学び、経験したことを、いささかなりと、ロータリーへの報恩にしたいと考え、昭和43年6月「ロータリアン読本」を。また昭和45年8月「ひろがれ—まわれ」を。ロータリー初級教科書にと、いづれも自費出版した。昭和49年2月号の「ロータリーの友」に、私の応募した懸賞論文「ロータリー何をなすべきか」が、計らずも入選一席の光栄に浴した。これは私のロータリー20年に学んだ集大成とも言うべきもので、拙文ではあるが、10年後の今、読み返えて見ても訂正するところがないと自負している次第。当時、全国のロータリアンに話題を提供したのも事実である。

去る3月3日の例会日、私は皆出席の顕彰を拝受した。この文面には「貴君はロータリー精神に徹し、30年間皆出席されたのでその意欲を讃え、且つ御健康を祝福します」とある。金沢市内5RCの皆さんが受けられるものと全く同文であるが、簡にして要を得た名文である……と、つくづく感心する。実は20年ほど前、私が原文を作成した因縁のものである……自画自賛で恐縮。

人生「七十にして、心の欲する所に従えども矩を踰えず」と、論語にあるが、それは残念ながら私には駄目だった。正に年頃をわきまえぬ不徳の致すところで慚愧に堪えぬ。ロータリーでも、ずいぶん憎まれ口をたたいたであろうし、或るガバナーに対して、ロータリーの場における非を責めたこともある。おとなげない仕儀であった。あれこれ、ここに改めて30年分をとりまとめて、不徳を深くお詫び申し上げる次第である。

最後に、このたび金沢北ロータリークラブでは、私の30年を顕彰して下さった上、会員の吉田富士夫画伯作の瀟洒な「西王母」の花の掛軸を頂戴した。先の25年では、岡田会長、釣見幹事の内閣の時であった。友禅染の大家で、当時、会員の水野博さんの華麗な「雌雄の雉」の染額を賜った。このような心づかいをして下さるクラブが他にあるものだろうか。私は身に余る光栄と、クラブの重なるご厚情に、ただただ身にしみる喜びを禁じ得ません。ほんとうに有難うございました。

先年の雉の画面は、いたわり合っている雌雄の番で「仲よく睦まじく」が表現されている。しかし、私は併せて「雉も啼かずば撃たれまい」と、秘かに自らに言い聞かせつつ、自省に努めて参ったつもりではあるが……。

「西王母」の麗花について、作家吉田さんの解説では「西王母は椿の一種で、金沢地方では茶花として珍重している……宝生流の謡曲によれば、君臣相和して泰平の世を壽ぎ、樂を奏すると、美しく粧った気高い仙女、西王母が現われ、銀器に桃果をのせて捧げ、これは三千年に一度だけ花をつけ、実を結ぶ桃だと言って、今この時代に花を咲かせた吉祥を慶び、春風に和しつつ舞いながら君が代の千秋万歳を祝って昇天した……」とある。

私が若し、神仏の許しを得て永らえば、来年は喜寿を迎えることになるが、私は、これからの人生の余白を、いかに全うすべきか……感慨を新らたに世に仕えたいと念じて止みません。

柴田さんの30年皆勤を祝して

土 原 一 二



先日の例会で柴田さんが皆勤30年のクラブ顕彰を受けられた。まことにおめでたい限りで、これは長期間御健康であったことを証明するものである。一口に30年皆勤といってもなかなか至難のことで、数多くのロータリアンの中でも、そうざらにない筈です。

柴田さんは昭和28年3月に金沢RCに御入会になり、金沢東RC創立と同時に、そちらへ移籍になり、その間幹事、会長、第361地区石川分区代理と、ロータリーの重職を歴任された超一流のベテラン、ロータリアンであることは周知の通りである。

昭和48年10月金沢北RC創立と同時にこちらへお出で下さいまして、クラブ全体が大変にお世話になっています。私も金沢北RCに入会するまでは柴田さんとは全然面識ありませんでした。この秋、わがクラブは創立10周年の記念式を迎えるわけですがこの10年間の前半5年間の草創期の柴田さんの足跡たるや誠に偉大なもので、今そのことを思い浮べてみたい。チャーターメンバー38名中6名以外の32名は、皆ロータリーの「ロ」の字も知らない連中で、この人達にロータリーの概念、その精神、歴史、変遷等を徹底的に教えこまれた柴田ロータリー情報委員長の御苦勞は並大抵のものではありませんまい。会員諸氏を立派なロータリアンに、同時にわが金沢北RCを一日も早く優秀なクラブに仕上げるという念願が柴田さんの情熱をかきたてたのであろう。あのとときの氏の真剣な態度には、我々は圧倒されがちで、時には恐い存在とすら思えた。その方法として柴田さん一流の得意な麗筆を週報に連載されて我々を啓蒙された。例えば、「私の考えるロータリー」を16回、「私のロータリー手帖から」を12回、何れも我々の心を打つものばかり。又、当クラブ編集の「お、ロータアン」(職業奉仕とは、ロータリーとは)の2冊にも多大の援助指導をいただいた筈。この2冊はロータリアンにとって得難い座右の書として、世間に極めて高い評価を得ていると聞く。

又、柴田さんから奨められている良書は数多くあるが、中でも「ロータリーは人を作る」(佐藤千寿)、人間讃歌(人皆に美しき種子あり)(安積得也)、ロータリー論説77集(中村正巳)、私の観たロータリー(武藤博)は大変為になったと思うが、特に「ロータリーは人を作る」が大好きな書物である。その他クラブ週報、ガバナー月信、「ロータリーの友」の必読をすすめられたのは勿論である。又一方、柴田さんは忙しい中にも「ロータリーの友」にもよく投稿されて、「友」主催の「ロータリーは何をなすべきか」の懸賞論文に第一席で入選されている。その素晴らしい卓見、主張は夙にひろく多くのロータリアンの知るところとなり、多数の誌友、交友が出来ているため、「お、ロータアン」もそのため多大の発行部数になったのは、全く柴田さんのお蔭だと思う。又、少人数のクラブにとって活動し易い様にと16委員会を簡素な12委員会制に改め、当時の川嶋ガバナーの了解の下で之を採用する際にも、いろいろアドバイスをいただいた。その他とかく草創時代に最も困難と思われる諸行事、例えばクラブ自体がホストになるIGF(当時はICGFと云った)や「職業奉仕に関する石川県研修会」の企画、実行にも貴重な助言があった筈。

又、クラブ行事には卒先参加されて、他の会員に模範を示された。忘れもしない私が委員長であった職業奉仕委員会主催の第一回職場対抗早朝野球大会には、自分のところの中外製網チームを新に編成して出場させて我々は大変感激した。又、友好クラブの京都洛北RCを親善訪問したとき、欣然参加下さって、両クラブ有志が楽しく語り合い、古色蒼然の「京大和」旅館で皆といっしょに

泊ったあの夜のことが之も忘れられない。夕陽に映えた八坂の塔がとても印象的で早春の京都が今もまざまざと思い浮んでくる。

草創の5年間が過ぎる頃から会員もだんだん増加し、会員自身もロータリーが少しわかって来てクラブ活動も軌道に乗って来たと思われたのか、最近は何れもおっしゃらずに、少し離れたところでじっと見守っていらっしゃるように思う。然し時々ユーモアをとばして例会の空気を和らげて下さるやさしい心遣いには頭が下がる。然しながら今でも新入会員の教育には異常な悟然を注がれ、特に入会初日の研修会には懇々とロータリーを説かれ、ロータリアンの心構えを十分に手ほどきされます。ロータリーを一口に云えば「人間を人間らしくするところ」だと故、柿下博士の言葉を引用されて、極めてわかり易く説明されるのが常である。

最後に私の大好きな「徳は孤ならず、必ず隣あり」の言葉も柴田さんがお好きな筈だ。自分独りだけではなかなかやってゆけない。必ずまわりの方々の助けが必要だ。常に感謝の気持ちをもって初心を忘れずに今後も邁進したいと思う。ほんとうに柴田さん、御指導ありがとうございました。いついつまでもお達者で!!

輝やかし柴田三郎会員のロータリー歴

1953 (昭和28年 3月1日)	金沢ロータリークラブ	入会 (45才)
1954~55	〃	会場監督
1955~56	〃	幹事
〃	第61地区年次大会 (金沢市)	大会幹事
1958 (昭和33年 3月1日)	皆出席 5 ヶ年	
〃 6月	金沢東ロータリークラブ	創立移籍
1961~62	〃	副会長
1962~63	〃	会長 (5周年記念事業実施)
1963 (昭和38年 3月1日)	皆出席 10 ヶ年	
1966~67	第360地区岡田良介ガバナーの補佐 (ガバナー月信の編集)	
1967~69	〃ロータリーの友、	第360地区委員
1968 (昭和43年 3月1日)	皆出席 15 ヶ年	
〃 6月	創立10周年記念誌	編集刊行
〃 〃	〃ロータリアン読本、	編集、自費出版
1969~70	第361地区年次大会 (金沢市)	計画委員長
1970~71	第361地区矢橋六郎ガバナーの石川分区代理	(能美・志賀・富来 R C 創設)
1970 8月	〃ひろがれ—まわれ、	編集、自費出版
1973 (昭和48年 3月1日)	皆出席 20 ヶ年	
〃 10月	金沢北ロータリークラブ	創立移籍
1974 2月号発表	〃ロータリーの友、懸賞論文「ロータリー何をなすべきか」	入選一席
1978 (昭和53年 3月1日)	皆出席 25 ヶ年	
〃 10月	米山記念奨学会功労者	
1983 (昭和58年 3月1日)	皆出席 30 ヶ年	
	目下、回顧録自費出版計画中	

第7回 職場親善女子球技大会終る

昭和58年2月27日(日) 場所＝瓢箪町小学校体育館

職業奉仕委員長 池島 乙市

初春の香りが向山より時折、口唇に感ずる、去る2月の最終休日。朝より小雪舞い風雪が身を固くして仕舞う厳しき気温での球技大会となり、主催側として心配しましたが、バドミントン……22名、卓球……19名の職場代表の花形選手とアトラクションでは男女混成チームの数試合(会員含む)が行われ、過去例のない最高の盛況となりました。

尚、今回会員の諸氏より多大なる景品(123点)をロータリアンとしての友情プレゼントを賜わり各選手を感激させたようです。

これが次期大会を一層成功させるものと思います。最後に今大会に細心の御配慮と御協力を下された石丸会員と委員の方々、当クラブの皆様に厚くお礼を申し上げます。

以下成績は次の通りです。

卓球団体戦

優勝	瓢箪町耳鼻咽喉科医院	5勝
2位	北国銀行	4勝1敗
3位	中外製網	3勝1敗
4位	佃の佃煮	2勝3敗
5位	金沢シール	1勝4敗
6位	石川米油	

卓球個人戦

優勝	坂下 由美(北国銀行)
2位	中村 昌子(北国銀行)
3位	大友 鈴子(瓢箪町耳鼻咽喉科医院)
4位	池島 二三子(株金沢歯研)

バドミントン団体戦

優勝	北国銀行
2位	瓢箪町耳鼻咽喉科医院
3位	金沢シール
4位	中栄草栄堂(敢闘賞)

バドミントン個人戦

優勝	松本悦子・森田美幸組(北国銀行)	7勝
2位	中川真紀・山崎ひとみ組(北国銀行)	6勝
3位	石丸恭子・西谷千賀子組(瓢箪町耳鼻咽喉科)	6勝1敗
4位	福島明美・英さん組(北国銀行)	5勝2敗

大会当日の選手、応援団その他の係の方々は総数70余名でありました。

尚、選手その他審判の方々、大変御苦勞様でした。また来年、再び逢う日まで……。



